

書評

ごみ処理の最先端要素技術と 法規制の強化（増補改訂版）

廃棄物処理実務シリーズ・技術編(1)

著者：石川 禎昭 編著

発行：(株)日報

定価：2,300円（本体価格）

評者：小山 清（大阪市立工業研究所研究副主幹）

日本の環境汚染防止に関する法規性が年々厳しくなり、これに対応する技術が進展してきた。ごみ処理装置からリサイクル製品にいたる環境関連の国内市場は現在15兆円といわれており、今後の成長を勘案すると2010年には35兆円という巨大市場規模が予測されている。最近の日本のごみ処理技術の進展は著しいものがあり、欧米をはじめ中国などにごみ焼却プラントの多くが輸出されている。また、地球環境保全の視点からも、ごみ焼却排熱の高度有効利用の技術開発も進んできており、ごみ処理技術が高度化していくと考えられる。ごみ焼却プラントは、焼却機能、発電機能、下水処理機能、地域冷暖房機能などをもった総合プラント

であり、それぞれの要素技術が複合化されたものである。

本書は、ごみ処理の要素技術、特に中間処理技術を中心として最先端の要素技術について解説されている。また、関連する法規制についても解説されている。本書の内容としては、最先端の要素技術として、低温排熱回収技術、飛灰処理技術、耐熱液体キレートによる高性能飛灰処理技術、防音技術、リバーニングシステム型焼却プラント技術、腐食要因と金属材料の選定について、ハイレベル化したごみ処理技術として、ごみ焼却炉の多様化と性能比較、ダイオキシン類発生抑制技術と低減化技術、高カロリー化技術、排ガス処理システム技術、焼却プラント設計技術、バイオマスエネルギー化技術について、廃棄物処理に係わる法規性として、国際条約、国内条約と国内法の関係、環境関連法との関連について、また、清掃工場の解体とリサイクルとして、リサイクルを前提としたモデルの解体工事について解説している。

最新の技術について図表を多数使用されていて、たいへん理解しやすく、関係実務に携わっている者だけでなく、最近のごみ処理技術の実際を学ぶ者にも有効な書物であり、一読をお薦めする。

他団体ニュース

「リサイクル技術開発本多賞（第2回）」について

1. 対象

* 対象者

リサイクル技術の開発に従事しリサイクル技術に関する優れた研究論文及び技術論文発表を行った国内の大学、高専、公的研究機関、民間企業の研究者・技術者（個人又はグループ）を対象とします。

* 対象発表誌

報文は、5年以内に国内で発表されている学術誌、技術誌等に発表されたものとします。

2. 募集

募集機関 平成9年7月15日(火)～9月30日(火)

提出書類 申請書及び当該報文写し
(別途請求下さい)

提出先 (財)クリーン・ジャパン・センター
「リサイクル技術開発本多賞事務局」宛

3. 審査

(財)クリーン・ジャパン・センター内選定委員会

4. 表彰

(1) 表彰方法

表彰件数は2件以内として、賞状及び副賞（賞金50万円/件）を授与します。

(2) 表彰決定

平成9年11月予定

(3) 表彰時期、場所

平成10年1月、大阪市を予定

5. 問合せ先

〒105 東京都港区虎ノ門3-6-2 第2秋山ビル

(財)クリーン・ジャパン・センター「リサイクル技術開発本多賞事務局」(間宮または橋本)

TEL 03-3432-6301 FAX 03-3432-6319